

IOD現象の指標 (インド洋の西側の海面水温-(マイナス)東側の海面水温)

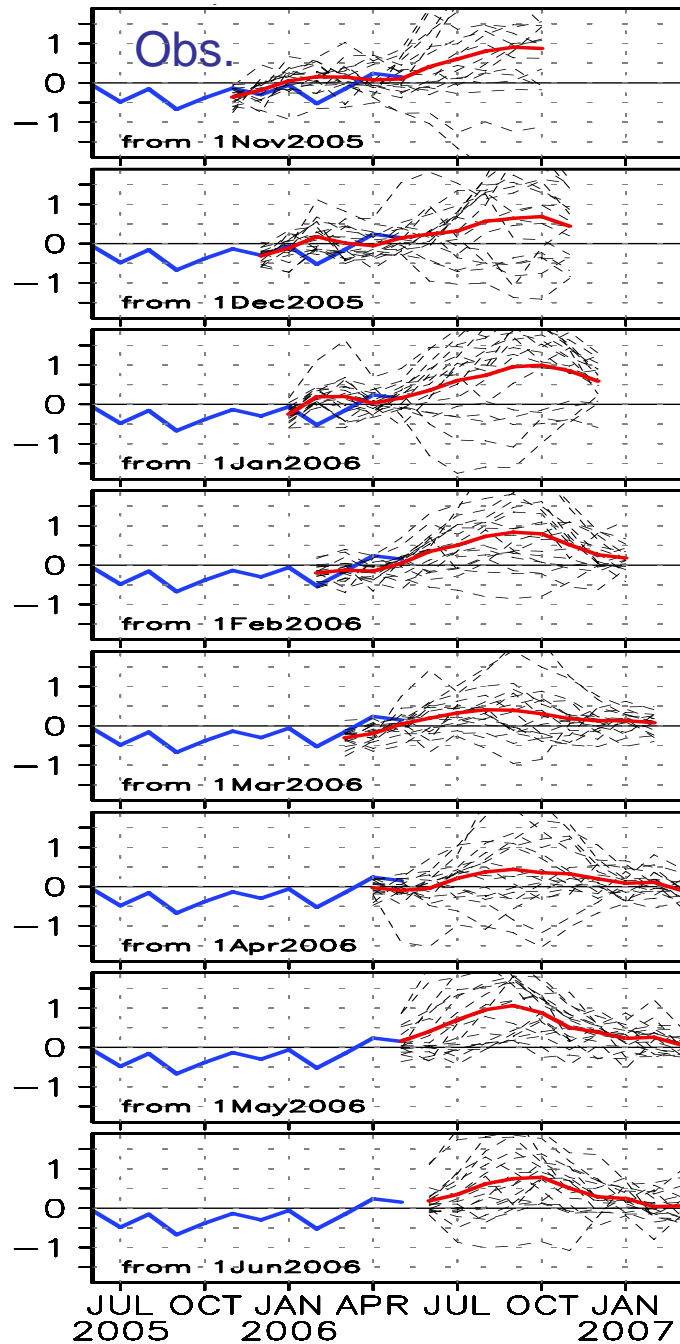


図1: インド洋ダイポールモード現象の予測状況

SINTEX-F1を用いた予測結果。

2005年11月1日から2006年6月1日の1ヶ月毎に1年先までの予測を行いました。IOD現象の状況を示す指数となる、インド洋西部(50° -70°、10° S-10° N)と東部(90° -110° E、10° S-0° )の平均海面水温の差を示しています。

青線は観測値、黒点線が僅かな違いを与えた18種類の予測値、赤線が予測値の平均を示します。基準値(0°C)より値が高い場合は、インド洋東部で水温が低く、西部で高い、正のIOD現象が生じていることを表します。

この図から、昨年11月からの予測でこの秋の正のIOD現象の発達が予測されていたことが分かります。